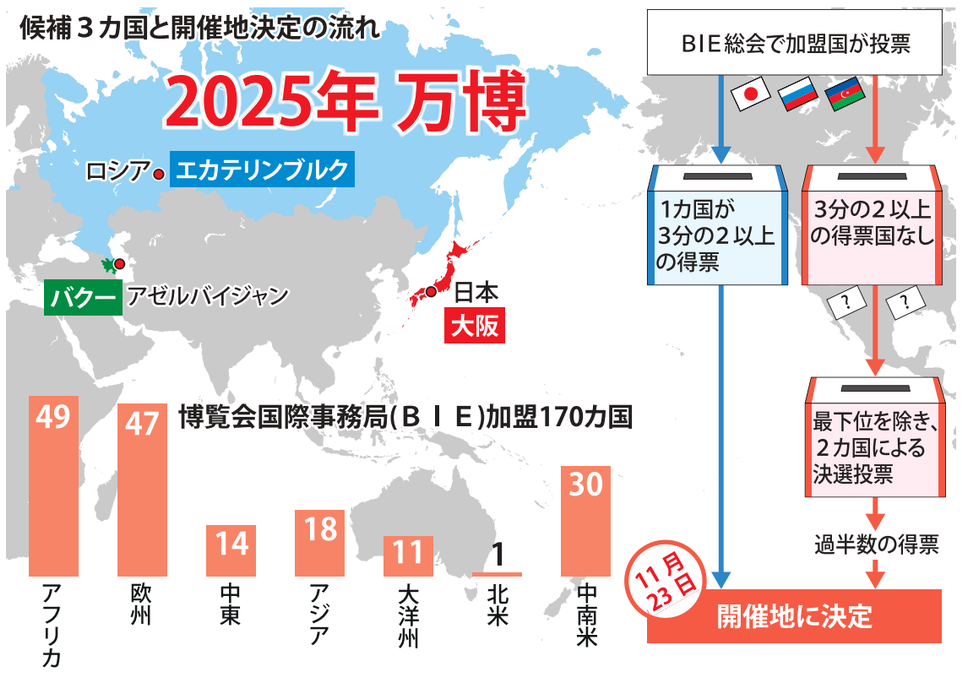
7年後 待っている

2025年に、大阪で1970年以来となる万博開催が決まった。ともに初開催を目指したロシア、アゼルバイジャンとの三つどもえの争いを制した。大阪湾の人工島・夢洲(ゆめしま)(大阪市此花区)の、155㌶の会場を舞台に、5月3日から11月3日までの185日間、「未来社会の実験場」が稼働する。万博は新しい技術が広まる契機になるといわれ、各地にシンボルも誕生している。近年では環境など社会的で今日的なテーマも重視される。25年の大阪万博では、一体何が登場するのか。7年後のその日を楽しみに待ちたい。



万博を巡る主な出来事

1851年		ロンドンで初の万博開催
53年		ニューヨーク万博で安全装置のついたエレベーターが出展される
67年		江戸幕府や薩摩藩などがパリ万博に出展
76年		フィラデルフィア万博でグラハム・ベルの電話機が出展される
89年		パリ万博で**エッフェル塔**が建設❶
1970年		「人類の進歩と調和」をテーマにアジア初となる大阪万博が開催。**太陽の塔**❷が建設され、**ワイヤレステレホン**❸や**電気自動車**❹など未来を先取りした品々が並んだ
2005年		環境をテーマにした愛知万博が開催。暑さ対策の一環で**ドライミスト**❺が活用された
10年		上海万博開催。入場者7300万人超で過去最多に
15年		食をテーマにミラノ万博が開催
17年		政府が25年万博の大阪誘致を決定
18年	1月	フランスが25年万博誘致を断念。ロシア、アゼルバイジャンとの三つどもえの争いに
	6月13日	パリで開かれた博覧会国際事務局(BIE)総会で事実上最後のプレゼンテーション
	11月23日	**パリで開かれたBIE総会で25年万博の開催地が大阪に決定**

6月13日のプレゼンテーション(BIEの公式ホームページから)

① **開催地** 日本(大阪)
② **開催期間** 2025年5月3日～11月3日
③ **テーマ** いのち輝く未来社会のデザイン

(6月13日のプレゼン) 1970年大阪万博との違いをアピール。京都大の山中伸弥教授は再生医療の取り組みを紹介し、「次の万博は『素晴らしい実験室』にしたい」。安倍晋三首相はビデオ出演で「世界中の子供たちを元気づけ、彼らの人生を変える体験になる」と強調。大阪の風景や先端技術を映像で紹介した

6月13日のプレゼンテーション(BIEの公式ホームページから)

① **ロシア**(エカテリンブルク)
② 5月2日～11月2日
③ 世界の変革：将来世代のためのイノベーションとよりよい生活

史上最大となる約550㌶の会場で都市と自然を調和。万博跡地は「スマートシティー」にし、再生可能エネルギーや自動運転で技術革新を実現する

6月13日のプレゼンテーション(BIEの公式ホームページから)

① **アゼルバイジャン**(バクー)
② 5月10日～11月10日
③ 人的資本の発展、よりよい未来の構築

国連の「持続可能な開発目標」に合致する活力などが副テーマ。295㌶の星形会場で国同士の協力を促進するようなパビリオン群を用意する

万博会場の配置図

大阪万博予定地の夢洲＝大阪市此花区で、本社ヘリから

万博会場予定地の夢洲でダンスを踊る大阪府立登美丘高校ダンス部の生徒ら＝大阪市此花区で10月20日、山崎一輝撮影

私たちも待ち遠しい

2025年大阪万博で検討されている「未来社会」 ※政府の構想などから

個々人に合った食事や運動をアドバイス
IoT活用で来場者の体調を計測・分析する最新技術を体験できる

パビリオンでの待ち時間ゼロ
施設の空き状況を「見える化」し、会場内の移動も万博体験に

10歳の若返り
iPS細胞による再生医療で、健康寿命と平均寿命の差を埋める?

最大80億人が仮想で「来場」
VRで海外でも会場にいるかのような体験ができ、世界中で交流も

環境技術のショーケース化
会場内ではバイオマスエネルギーを使い、海水の淡水化も計画

未来の社会どう描く

2025年に開幕する2度目の大阪万博では、どんな「未来社会」が目の前に広がっているのだろう。

【藤顕一郎】

IoTで健康増進

構想では、夢洲の155㌶の会場を「未来社会の実験場」と位置づける。人工知能(AI)や仮想現実(VR)などの先端技術を駆使。健康や予防医療などをテーマに最先端技術やアイデアを披露する。モノのインターネット(IoT)を活用して、来場者が健康状態を「バイタルセンシング技術」で確認できる。体調を計測し、その人に合った食や運動の方法を見つける。藻類を使ったバイオマスエネルギーや、海水を淡水化する環境技術も見せる予定だ。

ストレスゼロ

パビリオンでの待ち時間ゼロも目指す。混雑でストレスを感じないよう、施設の空き状況をIoTの活用で「見える化」。会場内の移動時も全て「体験の時間」とすることを目指し、1人用小型乗り物の実証実験も提案する。会場には飲食や物販の施設も設け、大阪の「ソウルフード」、たこ焼きやお好み焼きも用意されるだろう。水上ホテルやグランピング(豪華なキャンプ)施設もある。

再生医療で若返り

「10歳若返る万博」のアイデアも。元気に過ごせる健康寿命と平均寿命の差が日本では約10歳とされ、その差を縮める狙いだ。人工多能性幹細胞(iPS細胞)による再生医療で、若返りにつながる治療が見つかれば、健康に長く生活できる未来を提案できる。

会場内には中心となる建物を置かず、未来社会を表すキーコンセプトは「非中心」と「離散」。敷地をあえて不規則に区分けした。多様な個と調和を図りながら、未来社会を共に創るメッセージを込めている。

毎日新聞